《令和7年度 研究会活動紹介》

研　究　会　名	代 表 者 氏 名
仏教×科学相関研究会	山田　俊弘
研究会名 略称:仏科相関	所　属:大正大学　非常勤講師

活　動　紹　介

【活動内容】第一に、従来の宗教と科学の関係についてなされてきた研究が、主としてキリスト教との関係であることを考慮したうえで、そこにおける議論のパターンとその仏教とりわけ大乗仏教との関係への適用可能性を検討する。第二に、科学史・数学史研究における新しい動向、とりわけ科学(進化論)の大衆化ならびに科学の客観性認識をめぐる歴史的変遷の二つの動向と、日本の近代仏教史研究のあいだに新しい領域を開拓することを目的とする。そこでは研究主体のもつ仏教思想の様相が問題になることから、社会の世俗化や情報化の問題も含め、日本独自の貢献が見通せることになる。現在6名の会員がおり、月に一度の月例会を中心に研究会活動を行っている。

【活動実績】令和6年度
第1回　2024年4月24日(水)山田俊弘「近代日本における仏教と科学の相関史について:南方熊楠にフォーカスしつつ」
第2回　2024年5月22日(水)高橋秀裕「仏教×数学の相関をめぐって:教養教育と授業「数学と心・仏教」から」
第3回　2024年6月19日(水)丹波博紀「水俣学における宗教的要素:最近の研究成果から」
第4回　2024年7月24日(水)高橋秀裕「授業「数学と心・仏教」の実践から仏教×科学相関研究の可能性を探る」
第5回　2024年10月2日(水)青島正和「建設分野における仏教×科学相関例」
第6回　2024年11月27日(水)山田俊弘「「科学の危機」と仏教思想――廣松・吉田『仏教と事的世界観』を読み直す」
第7回　2024年12月18日(水)中嶋亮順「仏教×生命科学:教化における生命科学的知見の応用」
第8回　2025年1月15日(水)中川智視「ラフカディオ・ハーンの日本理解と仏教理解」

【令和7年度活動計画】令和7年度は、各分野の研究とともに、定期的に包括的な議論を行うことにより総説論文を作成することを目指す。キリスト教と科学との関係から仏教と科学の関係を見通すにあたって、土着科学・伝統科学・近代科学というそれぞれの段階における宗教との関わりについて、信仰−信念体系、世俗化、大衆化の諸様相をまとめることで一般化し、国際的な発信も考える。